

ミュージアム都留

ミュージアム都留は、訪れる人に都留市の歴史や文化を紹介する目的で、1999年に設立されました。常設展の見どころは、1万年以上前に最初にここに定住した、先史時代の縄文人の遺跡や、16世紀に城下町として栄えた矢村の繁栄を物語る地元の工芸品です。また、様々な事柄についても知ることができます。例えば、町を通る主な交通路を警護する上で、勝山城が果たした役割、1603年の全国統一後の平和な時代に盛んになった絹取引、1683年に5か月間この町に滞在した、有名な俳人、松尾芭蕉(1644～1694)など。滞在中、芭蕉が詠んだ、たくさんの都留の句は、市の誇りです。

この博物館には、音声、映像、文字による説明、ジオラマのような、マルチメディアを駆使した展示があります。メインとなる展示品は、都留の祭りで使う美しい屋台の1台です。これは、毎年9月に開かれる八朔祭の間、市の通りを手で引いていく、木製の巨大な屋台で、都留市の誇りです。葛飾北斎(1760～1849)のような、19世紀の著名な画家が下絵を描いた、見事な幕が特徴です。また、この博物館の見どころには、地元出身の現代画家、増田誠の絵の常設企画展もあります。飾らない日常生活を思い起こさせる作品です。